

理工学府の完成年度・ 第3期中期目標期間の 最終段階を迎えます

工学研究院長 梅澤 修



2020 年は、年初から世界的な新型コロナウイルス感染拡大により、我々が経験したことのない危機と混乱に直面しています。大学においても、卒業式および入学式の中止、政府から発せられた「緊急事態宣言」を受けて、学生の大学構内への入構を原則禁止、遠隔講義の実施、研究活動の制約など、その影響は計り知れません。

各国の動きをニュースで見ると、政治的・社会的・心理学的対立の危険性を知ること、人々の危機感を扇動する指導者に対する冷静な目を持つこと、社会の精神的連帯や相互信頼による自制という地道な作業の重要性に気づかされます。そして、人類の歴史は感染症との戦いであったことを再認識します。最も知られるペストの世界的流行は3度にわたっています。第2次流行のヨーロッパでは、14世紀の流行後、社会が大きく変わりました。人口の急減は中世社会を崩壊させるきっかけとなり、歴史上初めて森林面積の増加による寒冷化が進みました。17世紀の流行でCambridge大学が休校となり故郷に戻ったIsaac Newtonは、その三大業績をすべてこの時期になされたと言われています。歴史は繰り返すとよく言われます。新型コロナウイルス流行後の世界は、仕事のやり方のみならず、大学のありようも、大きく変えていくのかもしれません。

横浜国立大学理工学系学部・大学院は、大正9年にその前身である横浜高等工業学校として発足以来、2020年に創立100周年を迎えます。昨年11月末に羽沢横浜国大駅が開業したことを受け、最寄りの西門周辺の記念整備事業計画などが進行中です。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一部事業は延期となりますが、各事業や協賛金募集へのご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2018年4月1日に発足した理工学府は、2020年度においても、博士課程前期および後期ともに理工学府学生定員を充足する予定です。設置3年目となり、年度末には理工学府としての完成を迎えます。緑あふれる常盤台キャンパスも40年の時を刻んできました。工学基礎研究棟の改修工事が終わり、化学棟（旧物質工学科化学棟）の改修工事が進捗しています。

困難に直面している2020年ではありますが、「知の創造」と「人材の育成」という大学の本質に変わりはないと信じ、今我々に課されていることに努め、予見される令和時代の「ものづくり」に対して中心的・先導的に貢献できる人材やイノベーションの創出を担う人材の育成につながるよう、「名教自然」の理念のもと培われた伝統を大切に、工学研究院・理工学府の教職員一同、実践的研究の拠点へと一步一步前進してまいりたいと存じます。

2019-2020
Highlights

工学研究院／工学府／理工学府／理工学部